

2019年度 全道少年(U-12)8人制サッカー大会 兼 J A全農杯全国小学生選抜サッカーIN 北海道

【準決勝 Aコート】

«ASARI Football CLUB» 1 - 2 «FC DATE 少年団»

(0 - 0・1 - 1・0 - 1)

1回戦 2回戦を無失点で勝ち上がってきた ASARI と、2試合を 1点差で勝ち上がってきた DATE との対戦。

●第1ピリオド

晴天の中定刻 9 : 00 に ASARI のキックオフでスタート。ASARI は 3 - 2 - 2、DATE は 3 - 1 - 3 のフォーメーション。開始から ASARI がボールを支配するがゴール前まで運べない。互いにセミファイナル独特の硬さが見られ、中盤での攻防が続いたが、5分過ぎから徐々に ASARI が主導権を握る。⑩・⑦・②の中央での関わりが多くなりボックス付近での攻防が増え始める。②と⑦の中央でのコンビネーションから⑦がミドルシュートを放つが、惜しくもバーにはじかれる。終了間際にも②と⑩の中央のコンビネーションで最後は中央から⑦のミドルシュート。これもポストに阻まれ第1ピリオド終了。一方の DATE は相手コートへの侵入も少なく、終始守備の時間となっていたが、集中力が切れることなく粘り強くゴールを守っていた。ASARI のシュート数 5 本に対し DATE は 0 本と ASARI ペースの第1ピリオドであった。



●第2ピリオド

DATE のキックオフでスタート。立ち上がりから DATE がこの試合ファーストシュートを⑥が放ち CK を獲得。CK は相手にクリアされるが、1ピリとは展開が変わり 17 分には⑩が中央をドリブルで仕掛けミドルシュートを放つが惜しくも枠外。18分、②と⑥の中盤でのコンビネーションから相手ボックス内へ侵入し中央にいた⑩へボールが渡る。⑩はフリーの⑩へ。⑩が落ち着いて決め待望の先制点が DATE に生まれる。ASARI は⑨が果敢に DF 背後を狙い DATE ゴールを目指す。20 分には GK からのフィードに抜け出しゴールを狙うが DATE GK の好セーブに阻まれる。そのまま終了と思われた 23 分。GK からのフィードが⑨に収まり DF を背負うが反転してのシュート。これが右隅にきまり、1 - 1 で 2 ピリを終了する

●第3ピリオド

互いにファイナルを戦い気持ちが一進一退の好ゲームを続かせる。先にチャンスを作ったのは DATE。⑤と⑧のコンビネーションで中央を崩し ASARI ゴールに迫る。25 分の CK では相手 GK のセーブに阻まれるが、こぼれたボールを⑨がミドルシュート。枠外ではあったが連続した攻撃がではじめる。すると 27 分。⑧起点から中央フリーの⑩へ。⑩はワンタッチで右サイド⑤に展開。⑤からのボールは混雑したボックス内へ。この混戦の中で⑥のシュートがゴールへと吸い込まれ決勝点となる。惜しくも敗れた ASARI は第1ピリオドで見られた⑩と⑦、②の関わりが少なくなり、シュート数も FK の 1 本であった。これにより FC DATE が決勝へコマを進めた。



【準決勝 B コート】

《北海道コンサドーレ札幌 U-12A》 3-1 《プレイフル函館ジュニア》

(2-0-0-1-1-0)

3-1-2-1 のシステムから両サイドバックも積極的に攻撃にかかわるコンサドーレと、3-2-2 のシステムからフットサルで培った技術と相手との駆け引きに長けたプレイフル函館の対戦となった。

●第1ピリオド

基本技術の高さをベースにポゼッション率を高めながら試合を優位に進めるコンサドーレは、開始直後、左サイドから積極的に仕掛ける。3分、コンサドーレ⑨が左サイドを突破し、グラウンダーのクロス。コンサドーレ⑭が合わせる。プレイフル①由利が一度は止めるも再びコンサドーレ⑭が押し込み先制。コンサドーレは、先制後も攻守の切替えの速さでプレイフルのストロングポイントを発揮させず、⑩が起点となって攻撃を続ける。9分、前線に入ったボールを、コンサドーレ⑩が判断良くワンタッチで裏へ。コンサドーレ⑭がドリブルから冷静に2点目を決めた。プレイフルもスペースができたときに、ショートパスをうまく使いながらボールを運ぶものの、第1ピリオドはコンサドーレ優位のまま終了した。



●第2ピリオド

第2ピリオドのスターティングメンバーに攻撃のタレントが多いプレイフルだが、コンサドーレの攻守の切替えの速さに押し込まれる展開が続く。しかし、粘り強い守備から反撃のチャンスがうかがう。対するコンサドーレは、ポゼッション率は高いものの前線に起点をつくることができず、なかなかペナルティエリアに侵入することができない。11分、相手のビルドアップのパスを狙っていたプレイフル⑦がインターセプトし、⑨へパス。決定力のある⑨が冷静に決めて1点差に。その後もコンサドーレ優位に試合は進むが、プレイフルも粘り強い守備から鋭いショートカウンターで度々ゴールに迫り見応えのある攻防となった。

●第3ピリオド



第3ピリオドもコンサドーレのポゼッション率が高い試合展開となるが、受け手と題してのタイミングのずれやパスミスから決定機がつかれない。対するプレイフルもコンサドーレのプレッシャーの速さに、いつもの相手との駆け引きができず、互いに膠着した試合展開となる。28分、コンサドーレ②が相手DFの動きをよく観て右サイドを突破、クロスに⑨が合わせて試合を決定づける3点目を奪った。コンサドーレの選手達は、まだグラウンドでのシーズンが始まったばかりのため、ミドルパスと動き出しのタイミングにミスが目立ったものの、高い身体能力に加え攻守の切替えの速さが習慣化されているところは勝利に値する。対するプレイフルも粘り強い守備で対抗。第3ピリオドにはボールを持てる機会も増えたので、ベンチからも「いつも通りに」という声が出ていたように、得意とする相手との駆け引きをする場面をもっと観てみたかったところである。とはいえ、今大会のベストゲームと言える見応えのあるゲームだった。

【決勝 A コート】

《北海道コンサドーレ札幌 U-12A》 9 - 0 《FC DATE 少年団》

(1 - 0・3 - 0・5 - 0)

準決勝で共に接戦を制した前年度チャンピオンのコンサドーレと、地元 DATE との対戦。

●第 1 ピリオド

試合開始から北海道コンサドーレ札幌 U-12A (以下コンサ) の攻撃が DATE を襲う。⑨のシュートからスタートし、1 分には中央を⑩から⑩、そして⑨のフィニッシュ。3 分には中央⑤、⑰のコンビネーションから左サイド⑥へ展開。中央へのボールに⑩が反応するが、DATE 選手にブロックされる。さらに連続した攻撃で⑰の中央ミドルシュートは惜しくも枠外。中央、サイドと GK も含めた多くの選手が関わり、ボールを動かす。5 分、6 分、8 分、9 分と立て続けにシュートを放つがなかなかフィニッシュが決まらない。それでも終了間際の 11 分、右 CK のショートコーナーから先制点が生まれる。ショートコーナーを受けた⑰が中央⑨へ。相手の寄せがあった⑨は左サイド⑥へ展開。⑥のシュートが GK 頭上を越えてコンサが先制する。一方の DATE は守備に耐える第 1 ピリオドとなった。それでも粘り強く中央を塞ぎゴールを死守していた。



●第 2 ピリオド

第 1 ピリオド同様コンサが中央、サイドとピッチを大きく使いながら DATE ゴールを襲う。1 分右サイド中央からのスローインを⑩から⑮のスルーパス。しっかりとこれを決めて追加点。14 分には左サイドのスローインから、⑩と⑮の関わりから②がフィニッシュ。惜しくもポストに阻まれる。16 分、左サイドのスローインから⑦、⑳と渡り、⑬のシュートで 3 点目。19 分は右サイド DATE ボールのスローインを奪い⑩がそのまま右サイド⑮へ。⑮の折り返しを②が落ち着いて決め 4 点目。DATE は第 1 ピリオド同様守備の時間が多く、全員が自陣でプレーしている状況で、なかなかボールを奪うことも難しい状況であった。

●第 3 ピリオド

終始、主導権を握られた DATE はなかなか自分たちでボールを保持することができない。第 3 ピリオドも第 1、第 2 と同じような展開が続いた。25 分にはコンサ右サイド、⑮と⑩のコンビネーションから中央⑨へ。フリーの⑨は落ち着いてゴールへ流し込みこの試合最多の 6 本目のシュートがやっとネットを揺らした。26 分には左サイド⑧、⑨、⑬の関わりで⑨が中央へ折り返したボールが相手にあたりオウンゴール。28 分は左サイド⑬のスローインを⑩が抜けだしてゴール。34 分、35 分にも⑩と⑦が追加点を奪った北海道コンサドーレ札幌 U-12A が連覇を果たし 2 年連続の全国大会への切符を手にした。コンサドーレの全員が攻守に関わり、ボールが中央、サイドと動く。味方の選手の距離感もよく、相手の状況を見て最善のプレーを選択する。さらにスローインの成功率が抜群に良く、多くの得点につながっていたのが印象的であった。一方の DATE は第 1 ピリオドこそ中央を死守していたが、徐々に相手の攻撃のプレッシャーに押され、難しいゲームとなってしまった。

